

# 観光振興対策・地域公共交通対策等特別委員会 県内調査概要

令和6年8月23日(金)

## 1 奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合

### 【調査の目的】

奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合の取組について

### 【調査の概要】

奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合は、昭和35年に設立され、現在は150軒を超える県内の旅館・ホテル等の組合員が加盟し、施設の充実、安全性の向上、もてなしの心あふれる奈良を実現することを目標に活動されている。新型コロナウイルス感染症などにより減少した観光客数が復調し、インバウンド需要によるオーバーツーリズム等の諸問題が発生しているなか、同組合の取組や各支部の抱える問題を調査した。

### <奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合の取組・問題について>

- ・奈良公園周辺には多くの外国人観光客の訪問があるが、県内で宿泊する者は少ない。また、観光客数には地域差があるため、各地域の現状を支部長等より報告された。

#### ○洞川支部

- ・客層が変わり、家族連れが増えている。
- ・天川村にある信号機の待ち時間が非常に長く、観光客に悪い印象を与えてしまった。
- ・県北部へのアクセスが悪く、大阪に行くよりも時間がかかるため交通網の整備が必要である。

#### ○桜井支部

- ・定期観光バスや関西国際空港リムジンバスの発着場所が中和地区になく観光客にとって不便である。
- ・近鉄長谷寺駅が無人駅になり、観光シーズンにおいて不便を感じる方が多い。

#### ○信貴山支部

- ・王寺駅エリアのタクシーについて、夜8時以降に予約を受けてもらえないことが多く、朝早くに出発する宿泊客や、夜間に体調を崩し通院した宿泊客が病院から戻るタクシーを確保することに苦慮している。
- ・信貴山エリアの観光客は、高齢な方が多いため移動手段の確保が重要である。

#### ○天理支部

- ・山間部に行く観光客が多いが、山間部から戻る最終バス等の交通手段を逃し困られる方がいるため、公共交通機関の充実が必要である。
- ・山間部での古民家カフェやレストラン等が増えているが、ネット環境が悪く店舗に辿り着けないことがあるため、無料 Wi-Fi エリアの拡大が必要である。

#### ○吉野山支部

- ・旅館の数がコロナ禍や後継者不足により減少している。
- ・旅行ガイドブックの掲載順により観光客数が大きく変わるため、広報が重要になる。
- ・奈良県全体の観光を盛り上げるには、南部を活性化することが必要である。

#### ○奈良支部

- ・コロナ禍前の状況に戻ってきているが、人手不足が深刻であり宿泊を断ることもある。
- ・子供がいる人も働きやすい環境づくり等、多岐にわたる人手不足への対応が必要である。
- ・アジアからの観光客が多いため、欧米の富裕層をターゲットにした観光戦略を転換し、維持費が過大になる施設の検証が必要である。
- ・日帰り観光客について、奈良市の旅館・ホテル宿泊に係るO T A申込数が最下位であった。一分一秒でも滞在時間を延ばすことを考えなければならない。



## **2 生駒市役所（生駒市東新町8-38）**

### **【調査の目的】**

コミュニティバスの運行について

### **【調査の概要】**

生駒市コミュニティバスたけまる号は、生駒市が運行しているコミュニティバスであり、生駒市地域公共交通活性化協議会で検討を行い導入されている。鹿ノ台線については、実証実験を経て令和6年1月から本格運行され路線であり、導入までの経緯や問題点、導入後に判明した課題等について、生駒市及び鹿ノ台コミバス委員会からの説明を受けた。

### **<生駒市の状況>**

- ・生駒市内の移動には下記のような様々な課題がある
  - 地形について  
坂道や細い道が多く、近鉄奈良線や矢田丘陵をまたぐ移動が不便である。
  - 高齢化について  
計画的市街地における急速な高齢化が進み、坂道の歩行が困難であり、また、高齢者ドライバーが増えている。
  - 公共交通について  
人口減少、コロナ禍等による公共交通利用者の減少や運転手不足、電車・路線バスの減便などが発生している。
- ・このような課題を解決するために生駒市地域公共交通活性化協議会を設置し、生駒市地域公共交通計画に基づき、「持続可能な公共交通サービスで誰もが円滑に移動でき市民の活動機会が保証されているまち」を目指し、政策を検討・実施されている。

### **<たけまる号について>**

- ・たけまる号は移動が不便とされる地区で、生駒市が運行しているコミュニティバスである。
- ・各地区の要望を聞きながら、課題・特性を分析し、どのようなサービスが適しているか生駒市地域公共交通活性化協議会で検討を行い、導入を決定している。
- ・車を使わない人でも、生活に必要な買い物や通院などができるように運行しており、市民の活動機会を保障する移動手段の1つとして、重要な役割を担

っている。

- ・現在は、実証運行中の1路線を含む、7路線が運行中である。
- ・市の負担割合が7割を下回ることを基準とし、年度ごとに評価を実施し、持続可能な公共交通サービスの提供を目指している。

### <鹿ノ台線本格運行までの経緯と課題>

- ・鹿ノ台は、高齢化比率41.4%であり、坂道も多く、買い物・通院などの交通手段に課題がある地域である。
- ・平成29年に全自治会員にアンケートを実施し、「ぐるぐるバス」の運行の検討を開始した。
- ・その後、奈良交通や連合役員会等との協議を経て、令和元年に生駒市地域公共交通活性化協議会において鹿ノ台のコミュニティバスを検討することが決定され、自治連合会では傘下に「鹿ノ台コミバス委員会」を立ち上げ検討を進めた。
- ・令和3年に生駒市地域公共交通活性化協議会において実証運行の案が承認され、令和4年に実証運行を開始した。
- ・令和5年に本格運行への移行を生駒市地域公共交通活性化協議会に申請し、同年に承認され、令和6年に本格運行を開始した。
- ・本格運行開始後も、鹿ノ台コミバス委員会を中心に、スーパーマーケットとの協賛キャンペーンや、地域内のユリ畑鑑賞会等のイベントを実施するなど利用者増加に努めている。
- ・今後の課題として①移動手段としての定着・利用者の拡大②コミバスと自治連合会委員会との連携強化③費用負担軽減策の検討が挙げられた。



### **3 ノホテル奈良（奈良市大宮町7丁目1-43）**

#### **【調査の目的】**

宿泊客誘客のための取組について

#### **【調査の概要】**

ノホテル奈良は、奈良市の観光の要所である大宮通と、春には桜並木に多くの観光客や地元住民が集まる佐保川に面した土地に、令和6年9月4日に開業予定のホテルである。会議・イベントスペース、フィットネスルーム、キッズスペースなど多様なニーズに応える設備を有しており、県内宿泊客増加に向けた取り組みについて説明を受け、施設見学により調査を行った。

#### **<アコーグループについて>**

- ・ノホテル奈良は、世界全体で約5500軒、80万室、40以上のホテルブランドを運営するフランスのアコーグループに属するホテルである。
- ・アコーグループの国内ホテル数は、過去4年間で3倍、10年間で10倍と拡大しており、橿原市のグランドメルキュールも同グループに属するホテルであり、国内では、9ブランド、46ホテルを日本各地で運営しており、ノホテル奈良は、沖縄に次ぐ国内2軒目のノホテルブランドになる。

#### **<ノホテル奈良について>**

- ・ノホテル奈良のタグラインは「Your Time, Your Way（あなたの時間はあなたのために）」であり、家族との価値ある時間と場所を提供することが、ノホテルブランドが最も大切にしているキーマッセージである。
- ・子供が楽しめるキッズルームなどの設備や提供するサービス・アクティビティもこのコンセプトを基にしている。
- ・バランスのとれた快適さがノホテルの強みで、会議に参加する方や家族連れ、一人での利用など、ビジネスから観光まで幅広い客層に対応できる。
- ・24㎡～70㎡の14タイプ264室の客室がある。
- ・客室を含め、間仕切りの無い空間づくりをしている。
- ・レストランの「トラットリアポンテ奈良」では奈良県産の食材を多く使用したイタリアンをビュッフェ形式で提供している。
- ・ソーシャルラウンジやルーフトップテラスは奈良の景観を楽しめるバーやカフェとして利用可能。
- ・宴会場、会議室を3部屋有しており、様々な用途に使うことができる。

- ・ 宿泊客限定ではあるが大浴場がある。
- ・ 電源や個室ボックスを備えたワークラウンジにより、ビジネス用途の宿泊客にも対応可能である。

